



セレニティパークジャパン沖縄

理学療法士

金城 孝郎 氏

令和7年7月 マイスター獲得

この度、令和6年度「在宅医療・介護スクラム塾」全3回を受講し、2度目となるマイスターの栄誉を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。理学療法士として在宅医療同行訪問研修にも参加する中で、多職種連携の重要性は常に感じておりましたが、本スクラム塾は、その実践をさらに深化させるための新たな視座を与えてくれました。

第1回の「支援が届きにくい思い」、第2回の「治療拒否の背景」、そして第3回の「物がもつ意味」へと続く研修テーマは、困難事例の核心に迫るものでした。これら全ての事例に共通していたのは、私たち支援者がつい陥りがちな「思考停止」を打破し、「福祉・法律・倫理」の3つの視点を統合して対象者を立体的に捉え直すことの重要性です。これまで各分野を個別に捉えて

いた私にとって、これはまさに「目から鱗が落ちる」体験でした。

特に「最大限の倫理と最低限の倫理の間を模索し、最大限に近づく支援」という考え方や、「支援と業務の違い」を問う視点は、理学療法士としての私の実践を根底から揺さぶりました。機能回復という「業務」に集中するあまり、対象者のナラティブ（物語）に耳を傾け、関係性の中でご本人の真の想いを探するという「支援」の視点が欠けていなかったか、深く反省させられました。「答えは本人が持っている」—この言葉を胸に、これからは多職種チームで連携し、ご本人の想いを丁寧に聞き取る支援を徹底したいと考えます。

福祉・法律・倫理の専門家からの助言と、参加者の活発なグループワークは、こうした内省と新たな気づきを与えてくれる貴重な機会でした。2回目の受賞者として、この学びを自身の成長だけに留めることなく、今後のスクラム塾や在宅医療同行訪問研修で、より多くの仲間と共に真の利用者中心のケアを追求していく決意です。この研修は、私たち専門職にとって、困難事例を成長の糧に変えるための必須の「羅針盤」となるでしょう。